

令和 7 年中の札幌市の人口動態（住民基本台帳による）

令和 8 年 2 月

札幌市

本書に掲載している図表及び本文中の数値は、住民基本台帳による出生・死亡、人の移動等を集計したもので、なお、住民基本台帳法の改正により、平成24年7月9日から外国人住民も同法の適用を受けており、本書における数値は、特に記載がない限り、日本人住民と外国人住民の合計です。

1 札幌市の人団動態の概況

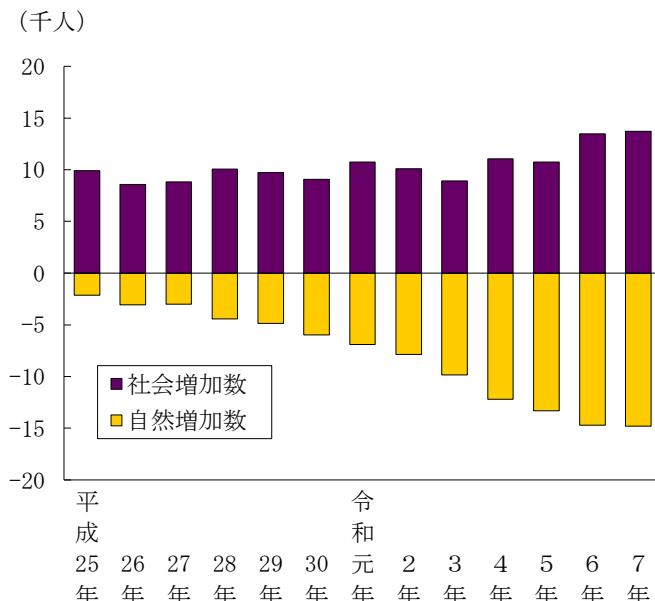
住民基本台帳による令和7年中の人団增加数はマイナス1,090人で、前年と比べてマイナス幅が縮小（第1表、第1図）

令和7年中の人団增加数はマイナス1,090人で、前年（マイナス1,250人）と比べてマイナス幅が160人縮小したが、5年連続のマイナスとなった。これを自然增加数（出生-死亡）と社会增加数（転入-転出）に区分すると、自然增加数はマイナス14,805人で、前年（マイナス14,712人）と比べてマイナス幅が93人拡大し、社会增加数は13,715人で、前年（13,462人）と比べて253人拡大している。

平成25年以降の推移をみると、自然增加数は、減少規模の拡大傾向が続き、令和4年以降は1万人を超えるマイナスで推移している。

社会增加数は、増加規模がおおむね8千人から1万人台で推移していたが、令和6年及び7年は1万3千人台で推移している。

第1図 自然增加数及び社会增加数の推移（各年中）



第1表 人口動態の推移

年次	人口增加数	自然動態			社会動態			各年中		
		自然增加数	出生	死亡	社会增加数	市外と の移動	区間移動 ・その他			
総数										
平成25年	7,762	△ 2,136	14,677	16,813	9,898	a) 8,765	a) 1,133			
26年	5,520	△ 3,060	14,622	17,682	8,580	a) 6,934	a) 1,646			
27年	5,816	△ 3,005	14,667	17,672	8,821	a) 6,766	a) 2,055			
28年	5,662	△ 4,408	14,189	18,597	10,070	a) 9,899	a) 171			
29年	4,854	△ 4,866	13,971	18,837	9,720	9,809	△ 89			
30年	3,109	△ 5,965	13,403	19,368	9,074	9,316	△ 242			
令和元年	3,856	△ 6,901	12,810	19,711	10,757	11,116	△ 359			
2年	2,262	△ 7,845	12,333	20,178	10,107	10,339	△ 232			
3年	△ 907	△ 9,835	12,100	21,935	8,928	9,300	△ 372			
4年	△ 1,156	△ 12,215	11,258	23,473	11,059	11,153	△ 94			
5年	△ 2,584	△ 13,323	10,456	23,779	10,739	11,002	△ 263			
6年	△ 1,250	△ 14,712	9,669	24,381	13,462	13,903	△ 441			
7年	△ 1,090	△ 14,805	9,412	24,217	13,715	14,165	△ 450			
うち日本人										
平成25年	7,776	△ 2,182	14,602	16,784	9,958	9,570	388			
26年	5,217	△ 3,107	14,543	17,650	8,324	7,954	370			
27年	5,231	△ 3,057	14,589	17,646	8,288	7,978	310			
28年	4,655	△ 4,459	14,107	18,566	9,114	8,848	266			
29年	3,862	△ 4,924	13,883	18,807	8,786	8,371	415			
30年	1,934	△ 6,016	13,314	19,330	7,950	7,647	303			
令和元年	2,388	△ 6,938	12,727	19,665	9,326	9,146	180			
2年	3,242	△ 7,917	12,229	20,146	11,159	10,714	445			
3年	△ 280	△ 9,867	12,029	21,896	9,587	9,384	203			
4年	△ 3,458	△ 12,242	11,187	23,429	8,784	8,483	301			
5年	△ 4,800	△ 13,352	10,374	23,726	8,552	8,407	145			
6年	△ 4,048	△ 14,755	9,579	24,334	10,707	10,588	119			
7年	△ 4,306	△ 14,870	9,311	24,181	10,564	10,430	134			

注：a) 外国人の集計方法が異なるため、平成29年以降の数値とは単純比較ができない。

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

2 自然動態

死亡数が10年ぶりに減少(第2表、第2図)

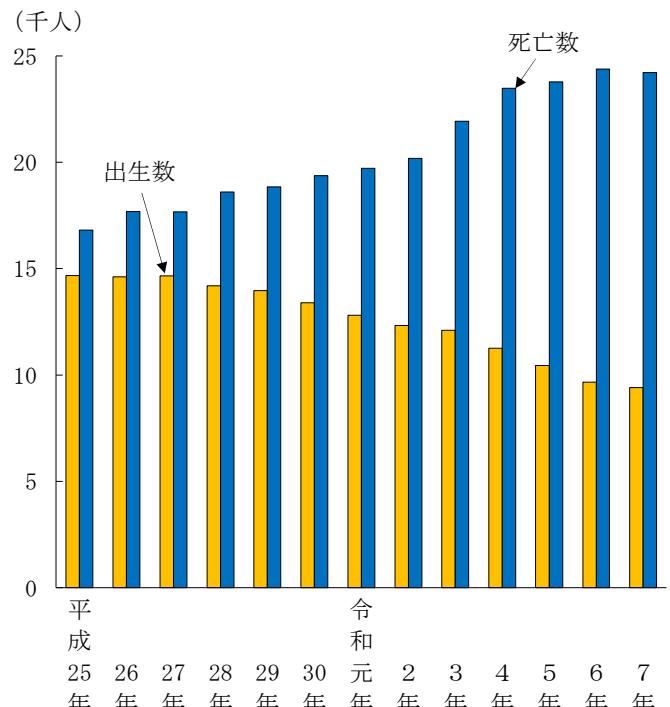
令和7年中の自然動態をみると、出生数は9,412人で、前年(9,669人)より257人減少した。死亡数は24,217人で、前年(24,381人)より164人減少し、平成27年以来、10年ぶりの減少となった。

平成25年以降の推移をみると、出生数は減少傾向が続き、29年に1万4千人を、令和元年に1万3千人を割った。その後、1万2千人台で推移していたが、令和4年に1万2千人を、5年に1万1千人を割り、6年には1万人を割っている。令和4年以降、出生数は前年と比べて800人前後の減少が続いているが、7年は257人の減少と減少幅が縮小した。

一方、死亡数は高齢化を背景に増加傾向にあり、令和2年に20,178人と2万人を超えた。その後も増加が続いているが、令和7年は前年と比べ164人の減少となった。

自然増加数は、出生数の減少及び死亡数の増加傾向によりマイナス幅の拡大が続いている。平成25年はマイナス2,136人であったが、令和4年以降はマイナス幅が1万人を超えて推移している。また、令和3年以降、前年と比べたマイナス幅の拡大規模は1千人から2千人台で推移していたが、7年は前年と比べたマイナス幅の拡大は93人にとどまり、拡大規模は縮小した。

第2図 出生数及び死亡数の推移
(各年中)



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第2表 自然動態の推移

年 次	自然動態			比率(%)			各年中 1)
	自然増加数	出生	死 亡	自然増加数	出生	死 亡	
平成25年	△ 2,136	14,677	16,813	△ 1.1	7.6	8.7	
	△ 3,060	14,622	17,682	△ 1.6	7.5	9.1	
	△ 3,005	14,667	17,672	△ 1.5	7.5	9.1	
	△ 4,408	14,189	18,597	△ 2.3	7.2	9.5	
	△ 4,866	13,971	18,837	△ 2.5	7.1	9.6	
	△ 5,965	13,403	19,368	△ 3.0	6.8	9.9	
令和元年	△ 6,901	12,810	19,711	△ 3.5	6.5	10.0	
	△ 7,845	12,333	20,178	△ 4.0	6.2	10.2	
	△ 9,835	12,100	21,935	△ 5.0	6.1	11.1	
	△ 12,215	11,258	23,473	△ 6.2	5.7	11.9	
	△ 13,323	10,456	23,779	△ 6.8	5.3	12.1	
	△ 14,712	9,669	24,381	△ 7.5	4.9	12.4	
7年	△ 14,805	9,412	24,217	△ 7.5	4.8	12.3	

注：1) 比率算出に用いた人口は、国勢調査人口及び推計人口(平成25年～令和6年は10月1日現在、7年は9月1日現在)である。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

3 社会動態

(1) 概況

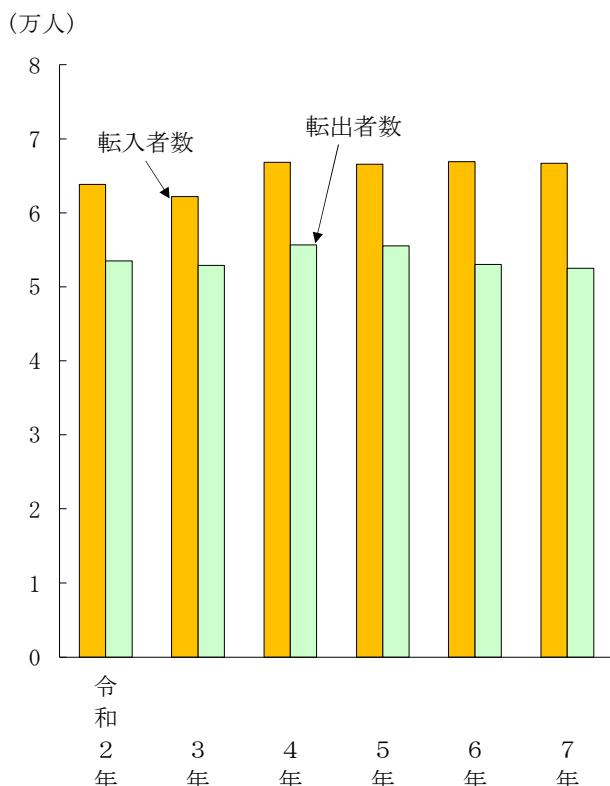
道外との移動は前年と比べて転入超過が拡大（第3表、第3図、第4図）

令和7年中の社会動態をみると、市外から札幌市への転入者数は66,692人で、前年（66,949人）より257人減少した。令和2年以降の推移をみると、2年の6万3千人台から3年には6万2千人台へ減少したが、4年以降は6万6千人台で推移している。

市外への転出者数は52,527人で、前年（53,046人）より519人減少した。令和2年以降の推移をみると、2年の5万3千人台から3年には5万2千人台へ減少した。令和4年に増加し、以降は、5万5千人台で推移していたが、6年には5万3千人台、7年には5万2千人台へ再び減少している。

転入超過数（転入者数－転出者数）は14,165人で、前年（13,903人）より262人拡大した。令和2年以降の推移をみると、2年の1万人台から、3年には9千人台となったものの、4年以降は1万1千人台で推移し、さらに6年は1万3千人台、7年は1万4千人台へと拡大している。うち日本人をみると、転入超過数は10,430人で、前年（10,588人）より158人縮小した。令和2年以降の推移をみると、縮小が続き、令和3年から5年にかけて1万人を下回って推移していたが、6年に拡大し、以降は1万人台で推移している。

第3図 転入・転出者数の推移（各年中）



＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

（回）

第3表 道内・道外別転入・転出者数の推移

年 次	転入者数			転出者数			転入超過数			各年中		
	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外	総 数	道 内	道 外
総 数												
令 和 2 年	63,859	36,973	26,886	53,520	26,139	27,381	10,339	10,834	△ 495			
3 年	62,213	35,896	26,317	52,913	25,972	26,941	9,300	9,924	△ 624			
4 年	66,843	36,062	30,781	55,690	26,211	29,479	11,153	9,851	1,302			
5 年	66,571	36,231	30,340	55,569	25,453	30,116	11,002	10,778	224			
6 年	66,949	35,633	31,316	53,046	23,011	30,035	13,903	12,622	1,281			
7 年	66,692	34,816	31,876	52,527	22,961	29,566	14,165	11,855	2,310			
う ち 本 人												
令 和 2 年	61,344	36,552	24,792	50,630	25,687	24,943	10,714	10,865	△ 151			
3 年	60,089	35,570	24,519	50,705	25,585	25,120	9,384	9,985	△ 601			
4 年	61,233	35,614	25,619	52,750	25,616	27,134	8,483	9,998	△ 1,515			
5 年	60,471	35,684	24,787	52,064	24,750	27,314	8,407	10,934	△ 2,527			
6 年	59,684	35,024	24,660	49,096	22,239	26,857	10,588	12,785	△ 2,197			
7 年	58,458	34,109	24,349	48,028	22,114	25,914	10,430	11,995	△ 1,565			

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

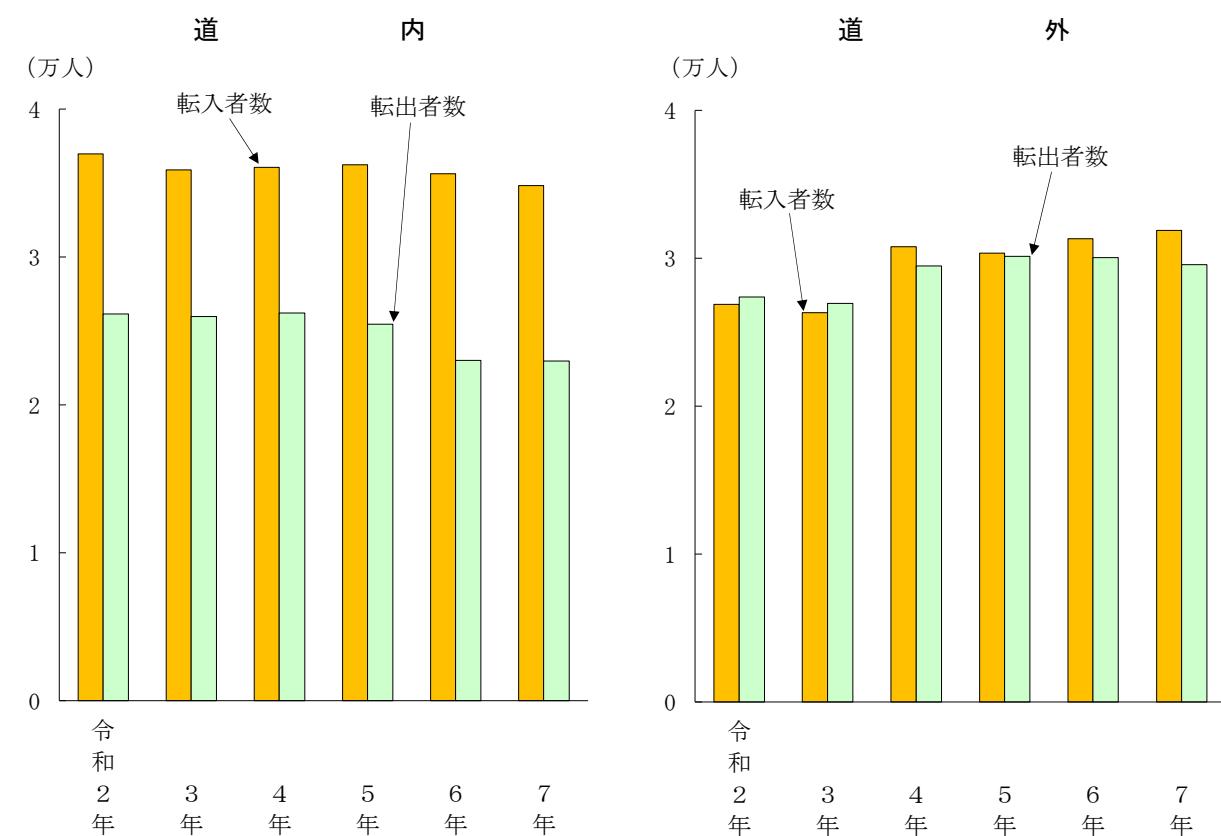
令和7年中の社会動態を道内・道外別にみると、道内からの転入者数は34,816人で、前年(35,633人)より817人減少した。令和2年以降の推移をみると、2年から6年は3万5千人から3万6千人台で推移していたが、7年は3万4千人台へ減少した。道内への転出者数は22,961人で、前年(23,011人)より50人減少した。推移をみると、令和2年から5年は、2万5千人から6千人台で推移していたが、6年は2万3千人台となり、7年は2万2千人台へ減少した。

道内との関係は転入超過が続いている、令和7年は11,855人の転入超過で、前年(12,622人)より767人縮小した。令和2年以降の推移をみると、2年から5年は1万人前後で推移し、6年は1万2千人台へ拡大したが、7年は1万1千人台へ縮小した。

道外からの転入者数は31,876人で、前年(31,316人)より560人増加した。令和2年以降の推移をみると、2年及び3年は2万6千人台だったが、4年に3万人台へ増加し、6年及び7年には3万1千人台へと増加している。道外への転出者数は29,566人で、前年(30,035人)より469人減少した。推移をみると、令和2年から4年は2万7千人から2万9千人台で推移し、5年及び6年は3万人を超えたが、7年には2万9千人台へ減少した。

道外との関係は令和4年以降転入超過となっており、7年は2,310人の転入超過で、前年(1,281人)より1,029人拡大した。令和2年以降の推移をみると、2年及び3年は転出超過となっていたが、4年に転入超過へ転じた。うち日本人についてみると、転出超過が続いている、令和7年は1,565人の転出超過で前年(2,197人)より632人縮小した。推移をみると、令和2年から5年は転出超過が拡大していたものの、6年以降は転出超過の縮小が続いている。

第4図 道内・道外別転入・転出者数の推移（各年中）



＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

(2) 市町村別転入・転出者数

主要8市からの転入超過数は、前年と比べると主要8市すべてで縮小（第4表、第5図）

主要8市（函館市、小樽市、旭川市、室蘭市、釧路市、帯広市、北見市及び苫小牧市）の令和7年中の転入者数、転出者数及び転入超過数をみると、転入者数は「旭川市」が2,985人で最も多く、以下、「函館市」が2,337人、「苫小牧市」が1,833人などと続いている。前年と比べると、「釧路市」が211人減と最も大きく減少し、以下、「小樽市」が111人減、「帯広市」が108人減などと続き、「苫小牧市」を除く7市で減少となつた。

転出者数は、「旭川市」が1,977人で最も多く、以下、「函館市」が1,793人、「帯広市」が1,299人などと続いている。前年と比べると、「帯広市」が100人増と最も大きく増加し、以下、「釧路市」が77人増、「函館市」が57人増などと続き、5市で増加となつた。一方、「旭川市」が78人減と最も大きく減少し、以下、「室蘭市」が45人減、「北見市」が8人減となつた。

転入超過数をみると、主要8市すべてに対して転入超過となつておらず、「旭川市」が1,008人と最も大きく、以下、「小樽市」が611人、「釧路市」が605人などと続いている。前年と比べると、「釧路市」が288人減と最も大きく縮小し、以下、「帯広市」が208人減、「小樽市」が120人減などと主要8市すべてで縮小となつた。

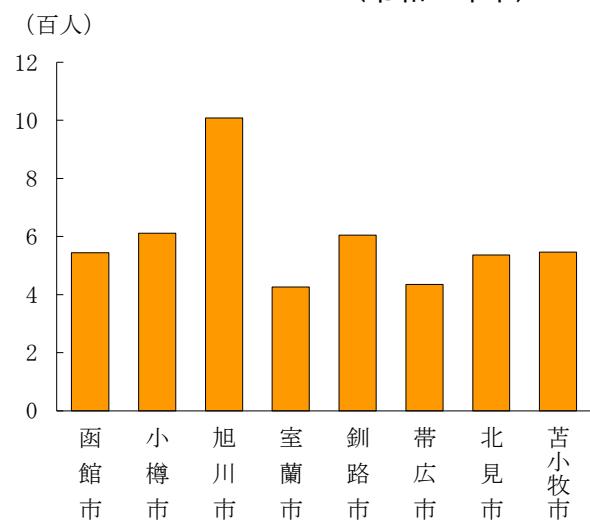
「石狩市」への転出者数が前年と比べ大きく増加（第4表、第6図）

石狩振興局管内（江別市、千歳市、恵庭市、北広島市、石狩市及び石狩郡部）の市町村について、令和7年中の転入者数、転出者数及び転入超過数をみると、転入者数は「江別市」が1,627人で最も多く、以下、「千歳市」が1,506人、「石狩市」が1,081人などと続いている。前年と比べると、「北広島市」が94人増、「石狩市」が18人増、「千歳市」が15人増と、3市で増加となつた。一方、「江別市」が171人減、「石狩郡部」が26人減、「恵庭市」が1人減と2市1地域で減少となつた。

転出者数は、「江別市」が1,635人で最も多く、以下、「石狩市」が1,211人、「千歳市」が1,053人などと続いている。前年と比べると、「石狩市」が175人増、「千歳市」が57人増と2市で増加となつた。一方、「江別市」が178人減、「北広島市」が58人減、「恵庭市」が23人減などと3市1地域で減少となつた。

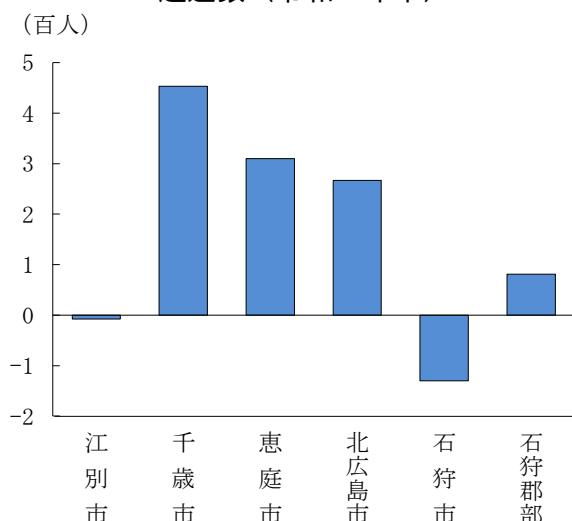
転入超過数をみると、3市1地域で転入超過となつておらず、「千歳市」が453人で最も大きく、以下、「恵庭市」が310人、「北広島市」が267人などと続いている。一方、2市で転出超過となつており、「石狩市」が130人、「江別市」が8人の転出超過となつておらず。前年と比べると、「北広島市」が152人増と最も大きく拡大し、以下、「恵庭市」が22人増、「江別市」が7人増となつた。一方で、「石狩市」が157人減、「千歳市」が42人減、「石狩郡部」が13人減と2市1地域で縮小となつた。

第5図 道内主要8市別転入超過数
(令和7年中)



＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第6図 石狩振興局管内市・地域別転入超過数 (令和7年中)



＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第4表 道内市町村別転入・転出者数の推移

市町村	令和2年	各年中				
		3年	4年	5年	6年	7年
転入者数						
総数	36,973	35,896	36,062	36,231	35,633	34,816
うち主要8市	15,576	15,333	15,096	15,411	15,030	14,337
函館市	2,673	2,620	2,468	2,574	2,379	2,337
小樽市	1,751	1,566	1,652	1,640	1,687	1,576
旭川市	3,192	3,397	3,197	3,167	3,081	2,985
室蘭市	1,092	1,055	1,109	1,141	1,074	1,000
釧路市	1,838	1,901	1,857	1,905	1,880	1,669
帯広市	1,886	1,753	1,802	1,844	1,842	1,734
北見市	1,216	1,178	1,145	1,136	1,257	1,203
苫小牧市	1,928	1,863	1,866	2,004	1,830	1,833
うち石狩振興局	6,933	6,805	6,877	6,572	6,678	6,607
江別市	2,067	1,898	2,053	1,844	1,798	1,627
千歳市	1,333	1,428	1,398	1,365	1,491	1,506
恵庭市	945	883	921	896	988	987
北広島市	1,001	1,013	1,021	1,007	965	1,059
石狩市	1,226	1,191	1,102	1,088	1,063	1,081
石狩郡部	361	392	382	372	373	347
転出者数						
総数	26,139	25,972	26,211	25,453	23,011	22,961
うち主要8市	10,659	10,851	10,949	10,201	9,474	9,626
函館市	1,967	1,907	1,947	1,767	1,736	1,793
小樽市	1,178	1,134	1,171	1,033	956	965
旭川市	2,291	2,305	2,429	2,244	2,055	1,977
室蘭市	582	654	697	628	619	574
釧路市	1,080	1,200	1,082	1,061	987	1,064
帯広市	1,440	1,483	1,419	1,401	1,199	1,299
北見市	797	719	763	786	675	667
苫小牧市	1,324	1,449	1,441	1,281	1,247	1,287
うち石狩振興局	6,800	6,608	6,709	6,601	5,674	5,634
江別市	2,249	2,014	2,000	1,861	1,813	1,635
千歳市	1,173	1,077	1,056	1,273	996	1,053
恵庭市	756	785	887	859	700	677
北広島市	966	998	977	936	850	792
石狩市	1,421	1,419	1,401	1,276	1,036	1,211
石狩郡部	235	315	388	396	279	266
超過数						
総数	10,834	9,924	9,851	10,778	12,622	11,855
うち主要8市	4,917	4,482	4,147	5,210	5,556	4,711
函館市	706	713	521	807	643	544
小樽市	573	432	481	607	731	611
旭川市	901	1,092	768	923	1,026	1,008
室蘭市	510	401	412	513	455	426
釧路市	758	701	775	844	893	605
帯広市	446	270	383	443	643	435
北見市	419	459	382	350	582	536
苫小牧市	604	414	425	723	583	546
うち石狩振興局	133	197	168	△ 29	1,004	973
江別市	△ 182	△ 116	53	△ 17	△ 15	△ 8
千歳市	160	351	342	92	495	453
恵庭市	189	98	34	37	288	310
北広島市	35	15	44	71	115	267
石狩市	△ 195	△ 228	△ 299	△ 188	27	△ 130
石狩郡部	126	77	△ 6	△ 24	94	81

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(3) 道外地域別転入・転出者数

「関東圏」の転出超過数が前年と比べ縮小（第5表）

道外を「東北圏」、「関東圏」、「中部圏」、「近畿圏」、「その他」（中国圏、四国圏、九州・沖縄圏）及び「国外」の6圏域（各圏域に該当する都府県については、第5表の注を参照）に分け、令和7年中の転入者数、転出者数及び転入超過数をみると、転入者数は「関東圏」が13,494人で全体の42.3%を占めて最も多く、以下、「国外」が7,352人（23.1%）、「中部圏」が3,131人（9.8%）、「東北圏」が2,757人（8.6%）、「近畿圏」が2,721人（8.5%）などとなっている。前年と比べると、「国外」が594人増、「近畿圏」が110人増、「中部圏」が41人増などと、4地域で増加となった。一方、「その他」が150人減、「関東圏」が44人減と2地域で減少となった。

転出者数は、「関東圏」が15,615人で全体の52.8%と5割以上を占めて最も多く、以下、「国外」が3,716人（12.6%）、「近畿圏」が2,765人（9.4%）などと続いている。前年と比べると、「国外」が269人増、「中部圏」が84人増と2地域で増加となった。一方、「関東圏」が337人減と最も大きく減少し、以下、「東北圏」が261人減、「その他」が114人減などと、4地域で減少となった。

転入超過数をみると、3地域で転入超過となっており、「国外」が3,636人で最も大きく、以下、「東北圏」が614人、「中部圏」が283人などと続いている。一方、3地域で転出超過となっており、「関東圏」がマイナス2,121人で最も大きく、「その他」がマイナス58人、「近畿圏」がマイナス44人などと続いている。令和2年以降の推移をみると、「関東圏」は、4年から転出超過が拡大していたが、7年は前年と比べ293人の縮小となった。「国外」は、令和3年は転出超過となつたが、4年以降は再び転入超過となり、6年及び7年には3千人を超える転入超過となつてている。

第5表 道外地域別転入・転出者数の推移

年 次	実 数					国 外	割 合 (%)					各年中					
	総 数	国 内					東北圏 1)	関東圏 2)	中部圏 3)	近畿圏 4)	その他	国 内				国 外	
		東北圏 1)	関東圏 2)	中部圏 3)	近畿圏 4)							東北圏 1)	関東圏 2)	中部圏 3)	近畿圏 4)		
転 入 者 数																	
令和2年	26,886	2,870	13,795	2,920	2,513	2,352	2,436	10.7	51.3	10.9	9.3	8.7	9.1				
3年	26,317	2,899	13,997	2,964	2,690	2,270	1,497	11.0	53.2	11.3	10.2	8.6	5.7				
4年	30,781	2,887	14,062	3,089	2,694	2,441	5,608	9.4	45.7	10.0	8.8	7.9	18.2				
5年	30,340	2,861	13,607	2,980	2,579	2,469	5,844	9.4	44.8	9.8	8.5	8.1	19.3				
6年	31,316	2,748	13,538	3,090	2,611	2,571	6,758	8.8	43.2	9.9	8.3	8.2	21.6				
7年	31,876	2,757	13,494	3,131	2,721	2,421	7,352	8.6	42.3	9.8	8.5	7.6	23.1				
転 出 者 数																	
令和2年	27,381	2,251	15,171	2,645	2,642	2,366	2,306	8.2	55.4	9.7	9.6	8.6	8.4				
3年	26,941	2,336	15,301	2,648	2,667	2,312	1,677	8.7	56.8	9.8	9.9	8.6	6.2				
4年	29,479	2,499	15,907	2,868	2,801	2,499	2,905	8.5	54.0	9.7	9.5	8.5	9.9				
5年	30,116	2,444	15,866	2,871	2,912	2,432	3,591	8.1	52.7	9.5	9.7	8.1	11.9				
6年	30,035	2,404	15,952	2,764	2,875	2,593	3,447	8.0	53.1	9.2	9.6	8.6	11.5				
7年	29,566	2,143	15,615	2,848	2,765	2,479	3,716	7.2	52.8	9.6	9.4	8.4	12.6				
転 入 超 過 数																	
令和2年	△ 495	619	△ 1,376	275	△ 129	△ 14	130	—	—	—	—	—	—				
3年	△ 624	563	△ 1,304	316	23	△ 42	△ 180	—	—	—	—	—	—				
4年	1,302	388	△ 1,845	221	△ 107	△ 58	2,703	—	—	—	—	—	—				
5年	224	417	△ 2,259	109	△ 333	37	2,253	—	—	—	—	—	—				
6年	1,281	344	△ 2,414	326	△ 264	△ 22	3,311	—	—	—	—	—	—				
7年	2,310	614	△ 2,121	283	△ 44	△ 58	3,636	—	—	—	—	—	—				

注：1) 青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県。 2) 茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県。

3) 新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県。 4) 滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県。

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

4 男女別人口動態

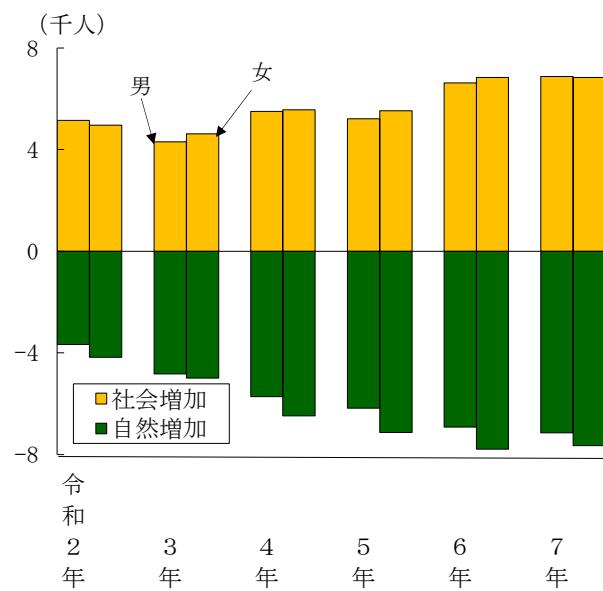
女性の自然増加数は、前年と比べてマイナス幅が縮小（第6表、第7図）

令和7年中の人口増加数を男女別にみると、男性はマイナス275人で前年（マイナス301人）を26人上回っている。女性はマイナス815人で前年（マイナス949人）を134人上回り、男女ともにマイナスとなっている。

男性の人口増加数の内訳をみると、自然増加数はマイナス7,152人と自然減少となっている一方で、社会増加数は6,877人と社会増加となっている。令和2年以降の推移をみると、自然増加数はマイナス幅の拡大が続いている一方で、7年は7千人を超えるマイナス幅となった。社会増加数は4千人から5千人台の規模で推移していたが、令和6年及び7年は6千人台の規模で推移している。

女性の人口増加数の内訳をみると、自然増加数はマイナス7,653人と自然減少となっている一方で、社会増加数は6,838人と社会増加となっている。令和2年以降の推移をみると、自然増加数はマイナス幅の拡大が続いている一方で、7年は前年と比べマイナス幅が縮小した。社会増加数は4千人から5千人台の規模で推移していたが、令和6年及び7年は6千人台の規模で推移している。

第7図 男女別自然増加数及び社会増加数の推移（各年中）



＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第6表 男女別人口動態の推移

年次	人口 増加数	自然動態			社会動態				各年中 その他
		自然 増加数	出生	死亡	社会 増加数	市外との移動	道内	道外	
		総数			数				
令和2年	2,262	△ 7,845	12,333	20,178	10,107	10,834	△ 495	△ 232	
3年	△ 907	△ 9,835	12,100	21,935	8,928	9,924	△ 624	△ 372	
4年	△ 1,156	△ 12,215	11,258	23,473	11,059	9,851	1,302	△ 94	
5年	△ 2,584	△ 13,323	10,456	23,779	10,739	10,778	224	△ 263	
6年	△ 1,250	△ 14,712	9,669	24,381	13,462	12,622	1,281	△ 441	
7年	△ 1,090	△ 14,805	9,412	24,217	13,715	11,855	2,310	△ 450	
男									
令和2年	1,471	△ 3,672	6,335	10,007	5,143	4,605	629	△ 91	
3年	△ 530	△ 4,835	6,258	11,093	4,305	4,150	344	△ 189	
4年	△ 232	△ 5,727	5,864	11,591	5,495	3,991	1,559	△ 55	
5年	△ 976	△ 6,183	5,461	11,644	5,207	4,483	926	△ 202	
6年	△ 301	△ 6,926	4,977	11,903	6,625	5,469	1,447	△ 291	
7年	△ 275	△ 7,152	4,721	11,873	6,877	5,147	2,076	△ 346	
女									
令和2年	791	△ 4,173	5,998	10,171	4,964	6,229	△ 1,124	△ 141	
3年	△ 377	△ 5,000	5,842	10,842	4,623	5,774	△ 968	△ 183	
4年	△ 924	△ 6,488	5,394	11,882	5,564	5,860	△ 257	△ 39	
5年	△ 1,608	△ 7,140	4,995	12,135	5,532	6,295	△ 702	△ 61	
6年	△ 949	△ 7,786	4,692	12,478	6,837	7,153	△ 166	△ 150	
7年	△ 815	△ 7,653	4,691	12,344	6,838	6,708	234	△ 104	

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

5 年齢別人口動態

すべての年齢階級で転入超過（第7表、第8図）

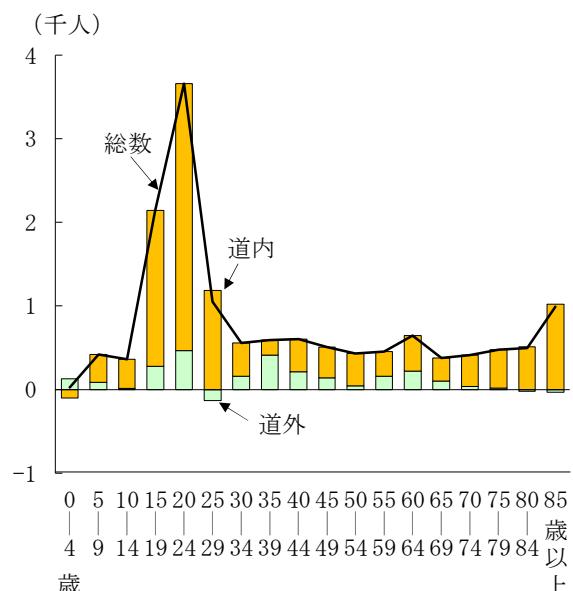
令和7年中の市外との転入・転出者数を年齢（5歳階級）別にみると、転入者では「20～24歳」が14,456人で最も多く、以下、「25～29歳」が10,897人、「30～34歳」が6,769人などと続いている。転出者では、「20～24歳」が10,795人で最も多く、以下、「25～29歳」が9,846人、「30～34歳」が6,214人などと続いている。転入者、転出者ともに、「20～24歳」が最も多くなっている。

転入超過数をみると、すべての年齢階級で転入超過となっている。「20～24歳」が3,661人で最も大きく、「15～19歳」が2,140人、「25～29歳」が1,051人などと続いている。これらの年齢階級で1千人を超えていている。

転入超過数を道内・道外別にみると、道内は「0～4歳」を除くすべての年齢階級で転入超過となっている。「20～24歳」が3,196人と3千人を超える転入超過で最も大きく、次いで、「15～19歳」が1,862人、

「25～29歳」が1,182人などと続いている。一方、道外は3つの年齢階級で転出超過となっており、「25～29歳」がマイナス131人で最も大きくなっている。転入超過となっている年齢階級をみると、「20～24歳」が465人、「35～39歳」が409人、「15～19歳」が278人などと、15の年齢階級で転入超過となっている。

第8図 道内・道外、年齢（5歳階級）別転入超過数（令和7年中）



＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第7表 道内・道外、年齢（5歳階級）別転入・転出者数

年齢 (5歳階級)	転入者数			転出者数			転入超過数			令和7年中
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外	
総 数	66,692	34,816	31,876	52,527	22,961	29,566	14,165	11,855	2,310	
0～4歳	2,411	1,165	1,246	2,384	1,266	1,118	27	△ 101	128	
5～9	1,741	815	926	1,325	488	837	416	327	89	
10～14	1,093	557	536	735	215	520	358	342	16	
15～19	5,066	3,110	1,956	2,926	1,248	1,678	2,140	1,862	278	
20～24	14,456	7,428	7,028	10,795	4,232	6,563	3,661	3,196	465	
25～29	10,897	5,049	5,848	9,846	3,867	5,979	1,051	1,182	△ 131	
30～34	6,769	3,079	3,690	6,214	2,684	3,530	555	395	160	
35～39	4,583	2,020	2,563	3,993	1,839	2,154	590	181	409	
40～44	3,622	1,690	1,932	3,021	1,302	1,719	601	388	213	
45～49	3,239	1,651	1,588	2,734	1,287	1,447	505	364	141	
50～54	3,189	1,745	1,444	2,762	1,365	1,397	427	380	47	
55～59	2,521	1,404	1,117	2,069	1,114	955	452	290	162	
60～64	1,804	1,046	758	1,161	623	538	643	423	220	
65～69	1,118	677	441	744	406	338	374	271	103	
70～74	912	632	280	502	261	241	410	371	39	
75～79	921	684	237	445	228	217	476	456	20	
80～84	844	706	138	352	196	156	492	510	△ 18	
85歳以上	1,506	1,358	148	519	340	179	987	1,018	△ 31	
(再掲)										
年少人口	5,245	2,537	2,708	4,444	1,969	2,475	801	568	233	
生産年齢人口	56,146	28,222	27,924	45,521	19,561	25,960	10,625	8,661	1,964	
老人人口	5,301	4,057	1,244	2,562	1,431	1,131	2,739	2,626	113	

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

男性の「道外」は「85歳以上」を除くすべての年齢階級で転入超過（第8表、第9図）

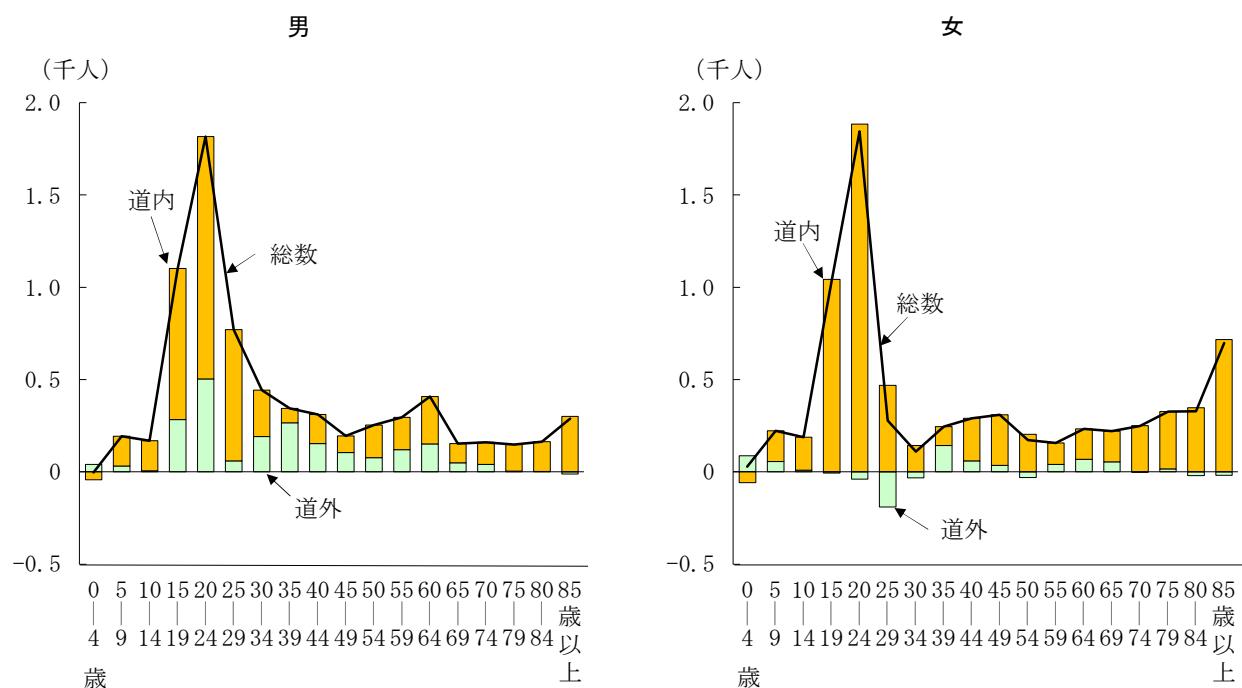
年齢（5歳階級）別転入・転出者数を男女別にみると、男性では、転入者は「20～24歳」が7,594人で最も多く、以下、「25～29歳」が5,922人、「30～34歳」が3,722人などと続いている。転出者は「20～24歳」が5,777人で最も多く、以下、「25～29歳」が5,150人、「30～34歳」が3,278人などと続いている。転入超過数は、「0～4歳」を除くすべての年齢階級で転入超過となっており、「20～24歳」が1,817人で最も大きく、以下、「15～19歳」が1,103人、「25～29歳」が772人などと続いている。

女性では、転入者は「20～24歳」が6,862人で最も多く、以下、「25～29歳」が4,975人、「30～34歳」が3,047人などと続いている。転出者は「20～24歳」が5,018人で最も多く、以下、「25～29歳」が4,696人、「30～34歳」が2,936人などと続いている。転入超過数は、すべての年齢階級で転入超過となっており、「20～24歳」が1,844人で最も大きく、以下、「15～19歳」が1,037人、「85歳以上」が698人などと続いている。

転入超過数を道内・道外別にみると、道内は、男女ともに「0～4歳」を除くすべての年齢階級で転入超過となっている。男女ともに「20～24歳」の年齢階級が最も大きく、女性では2千人近くの転入超過となっている。

道外は、男性は「85歳以上」を除くすべての年齢階級で転入超過となっており、特に「20～24歳」では、500人を超える転入超過となっている。女性は「25～29歳」や「20～24歳」など8の年齢階級で転出超過となっており、特に「25～29歳」では2百人近くの転出超過となっている。

第9図 男女、道内・道外、年齢（5歳階級）別転入超過数（令和7年中）



＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第8表 男女、道内・道外、年齢（5歳階級）別転入・転出者数

年齢 (5歳階級)	転入者数			転出者数			転入超過数			令和7年中
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外	
男										
総 数	35,881	17,926	17,955	28,658	12,779	15,879	7,223	5,147	2,076	
0～4歳	1,231	595	636	1,233	638	595	△ 2	△ 43	41	
5～9	875	415	460	682	254	428	193	161	32	
10～14	530	269	261	360	105	255	170	164	6	
15～19	2,795	1,602	1,193	1,692	783	909	1,103	819	284	
20～24	7,594	3,623	3,971	5,777	2,310	3,467	1,817	1,313	504	
25～29	5,922	2,696	3,226	5,150	1,983	3,167	772	713	59	
30～34	3,722	1,669	2,053	3,278	1,417	1,861	444	252	192	
35～39	2,584	1,148	1,436	2,239	1,069	1,170	345	79	266	
40～44	2,108	967	1,141	1,797	810	987	311	157	154	
45～49	1,880	947	933	1,684	856	828	196	91	105	
50～54	1,928	1,030	898	1,674	854	820	254	176	78	
55～59	1,573	865	708	1,278	691	587	295	174	121	
60～64	1,095	639	456	686	381	305	409	258	151	
65～69	595	351	244	442	247	195	153	104	49	
70～74	404	259	145	243	138	105	161	121	40	
75～79	337	235	102	188	90	98	149	145	4	
80～84	276	225	51	112	63	49	164	162	2	
85歳以上	432	391	41	143	90	53	289	301	△ 12	
女										
総 数	30,811	16,890	13,921	23,869	10,182	13,687	6,942	6,708	234	
0～4歳	1,180	570	610	1,151	628	523	29	△ 58	87	
5～9	866	400	466	643	234	409	223	166	57	
10～14	563	288	275	375	110	265	188	178	10	
15～19	2,271	1,508	763	1,234	465	769	1,037	1,043	△ 6	
20～24	6,862	3,805	3,057	5,018	1,922	3,096	1,844	1,883	△ 39	
25～29	4,975	2,353	2,622	4,696	1,884	2,812	279	469	△ 190	
30～34	3,047	1,410	1,637	2,936	1,267	1,669	111	143	△ 32	
35～39	1,999	872	1,127	1,754	770	984	245	102	143	
40～44	1,514	723	791	1,224	492	732	290	231	59	
45～49	1,359	704	655	1,050	431	619	309	273	36	
50～54	1,261	715	546	1,088	511	577	173	204	△ 31	
55～59	948	539	409	791	423	368	157	116	41	
60～64	709	407	302	475	242	233	234	165	69	
65～69	523	326	197	302	159	143	221	167	54	
70～74	508	373	135	259	123	136	249	250	△ 1	
75～79	584	449	135	257	138	119	327	311	16	
80～84	568	481	87	240	133	107	328	348	△ 20	
85歳以上	1,074	967	107	376	250	126	698	717	△ 19	

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

6 各区の人口動態

豊平区の人口が10区中で最も大きく増加（第9表、第10表）

令和7年中の人口増加数を区別にみると、豊平区が1,375人で最も大きく増加し、以下、白石区が455人、東区が403人と続き、5区で人口増加となっている。一方、それ以外の5区では人口減少となっており、南区がマイナス1,108人、清田区がマイナス997人、厚別区がマイナス806人などと続いている。

人口増加数の内訳をみると、自然増加数はすべての区でマイナスとなっており、北区がマイナス1,973人で最も大きく減少し、以下、東区がマイナス1,698人、南区がマイナス1,693人などと続いている。

社会増加数をみると、すべての区で増加となっており、豊平区が2,793人で最も大きく増加し、次いで、東区が2,101人と、これらの2区ではそれぞれ2千人を超える社会増加となっている。以下、白石区が1,945人、中央区が1,841人、西区が1,682人、北区が1,617人などと続いている。市外との移動についてみると、すべての区で転入超過となっており、豊平区が2,410人で最も大きく、次いで、中央区が2,347人、北区が2,124人と、これら3区ではそれぞれ2千人を超える転入超過となっている。区間移動についてみると、5区で転入超過となっており、豊平区が426人で最も大きく、以下、東区が381人、西区が292人などと続いている。一方、5区で転出超過となっており、中央区がマイナス434人で最も大きく、次いで、北区がマイナス351人、南区がマイナス222人などと続いている。

第9表 各区の人口動態

区	人口増加数	自然動態			社会動態				令和7年中 職権等増減
		自然増加数	出生	死亡	社会増加数	市外との移動による増加	区間移動による増加		
全市	△ 1,090	△ 14,805	9,412	24,217	13,715	14,165	—	△ 450	
中央区	278	△ 1,563	1,252	2,815	1,841	2,347	△ 434	△ 72	
北区	△ 356	△ 1,973	1,315	3,288	1,617	2,124	△ 351	△ 156	
東区	403	△ 1,698	1,369	3,067	2,101	1,752	381	△ 32	
白石区	455	△ 1,490	1,125	2,615	1,945	1,782	222	△ 59	
厚別区	△ 806	△ 1,115	484	1,599	309	570	△ 221	△ 40	
豊平区	1,375	△ 1,418	1,257	2,675	2,793	2,410	426	△ 43	
清田区	△ 997	△ 1,102	370	1,472	105	276	△ 158	△ 13	
南区	△ 1,108	△ 1,693	499	2,192	585	851	△ 243	△ 23	
西区	316	△ 1,366	1,214	2,580	1,682	1,402	292	△ 12	
手稲区	△ 650	△ 1,387	527	1,914	737	651	86	—	

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第10表 区別区間転入超過数

区	対全市	対中央区	対北区	対東区	対白石区	対厚別区	対豊平区	対清田区	対南区	対西区	対手稲区	令和7年中
全市	—	434	351	△ 381	△ 222	221	△ 426	158	243	△ 292	△ 86	
中央区	△ 434	—	99	△ 104	△ 76	2	△ 202	85	19	△ 342	85	
北区	△ 351	△ 99	—	8	△ 67	22	△ 116	5	△ 14	29	△ 119	
東区	381	104	△ 8	—	112	△ 22	96	14	69	42	△ 26	
白石区	222	76	67	△ 112	—	198	14	△ 47	19	15	△ 8	
厚別区	△ 221	△ 2	△ 22	22	△ 198	—	△ 75	37	△ 2	16	3	
豊平区	426	202	116	△ 96	△ 14	75	—	32	148	△ 98	61	
清田区	△ 158	△ 85	△ 5	△ 14	47	△ 37	△ 32	—	△ 25	△ 6	△ 1	
南区	△ 243	△ 19	14	△ 69	△ 19	2	△ 148	25	—	△ 11	△ 18	
西区	292	342	△ 29	△ 42	△ 15	△ 16	98	6	11	—	△ 63	
手稲区	86	△ 85	119	26	8	△ 3	△ 61	1	18	63	—	

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

7 まちづくりセンター別人口動態

人口増加数の最も多いまちづくりセンターは東区の「鉄東」(第11表、第10図)

令和7年中のまちづくりセンター別人口増加状況をみると、増加が35か所、減少が51か所となっている。

人口増加数の多いまちづくりセンターをみると、東区の「鉄東」が604人で最も多く、以下、東区の「北光」が498人、中央区の「大通・西」が448人などと続いている。一方、人口増加数の少ないまちづくりセンターをみると、南区の「藻岩」がマイナス411人で最も少なく、以下、厚別区の「もみじ台」がマイナス390人、北区の「屯田」がマイナス376人などと続いている。

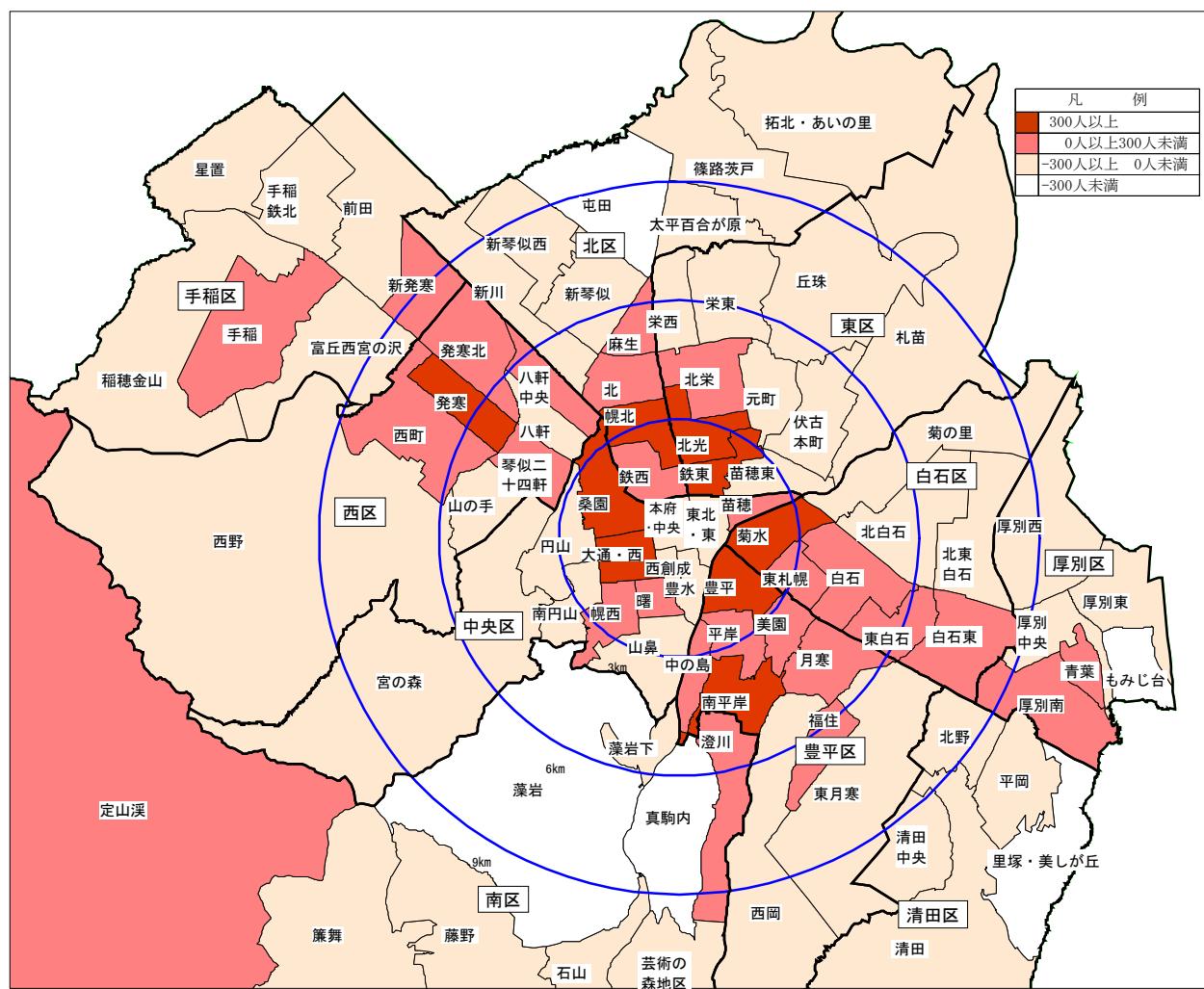
第11表 人口増加数の多いまちづくりセンター及び少ないまちづくりセンター

人口増加数の多いまちづくりセンター					人口増加数の少ないまちづくりセンター					令和7年中	
順位	まちづくりセンター	人口増加数	自然増加数 (1)	社会増加数 (1)	順位	まちづくりセンター	人口増加数	自然増加数 (1)	社会増加数 (1)	順位	まちづくりセンター
1	東) 鉄東	604	(26) △ 117	(1)	721	1	南) 藻岩	△ 411	(86) △ 450	(61)	39
2	東) 北光	498	(25) △ 115	(2)	613	2	厚) もみじ台	△ 390	(72) △ 257	(86) △ 133	
3	中) 大通・西	448	(17) △ 89	(4)	537	3	北) 屯田	△ 376	(74) △ 278	(85) △ 98	
4	中) 桑園	418	(36) △ 146	(3)	564	4	清) 里塚・美しが丘	△ 367	(79) △ 296	(81) △ 71	
5	豊) 南平岸	349	(40) △ 153	(5)	502	5	南) 真駒内	△ 308	(85) △ 350	(59)	42

注: 1) () 内の数値は、各増加数での順位。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第10図 まちづくりセンター別人口増加数(令和7年中)



<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

8 統計区別人口動態

(1) 自然増加数

自然増加数は北区の2003統計区(北海道大学構内)のみ増加(第12表、第11図)

令和7年中の統計区別自然増加状況をみると、増加が1統計区、減少が197統計区、増減なし5統計区(人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く)と、ほとんどの統計区で自然減少となっている。

自然増加数の多い統計区をみると、北区の2003統計区(北海道大学構内)が2人で唯一の増加となっている。一方、自然増加数の少ない統計区をみると、厚別区の4507統計区(もみじ台東・西・南・北)がマイナス257人で最も少なく、以下、手稲区の7502統計区(西宮の沢)がマイナス237人、南区の6020統計区(真駒内南町、石山、石山東、芸術の森)がマイナス222人などと続いている。

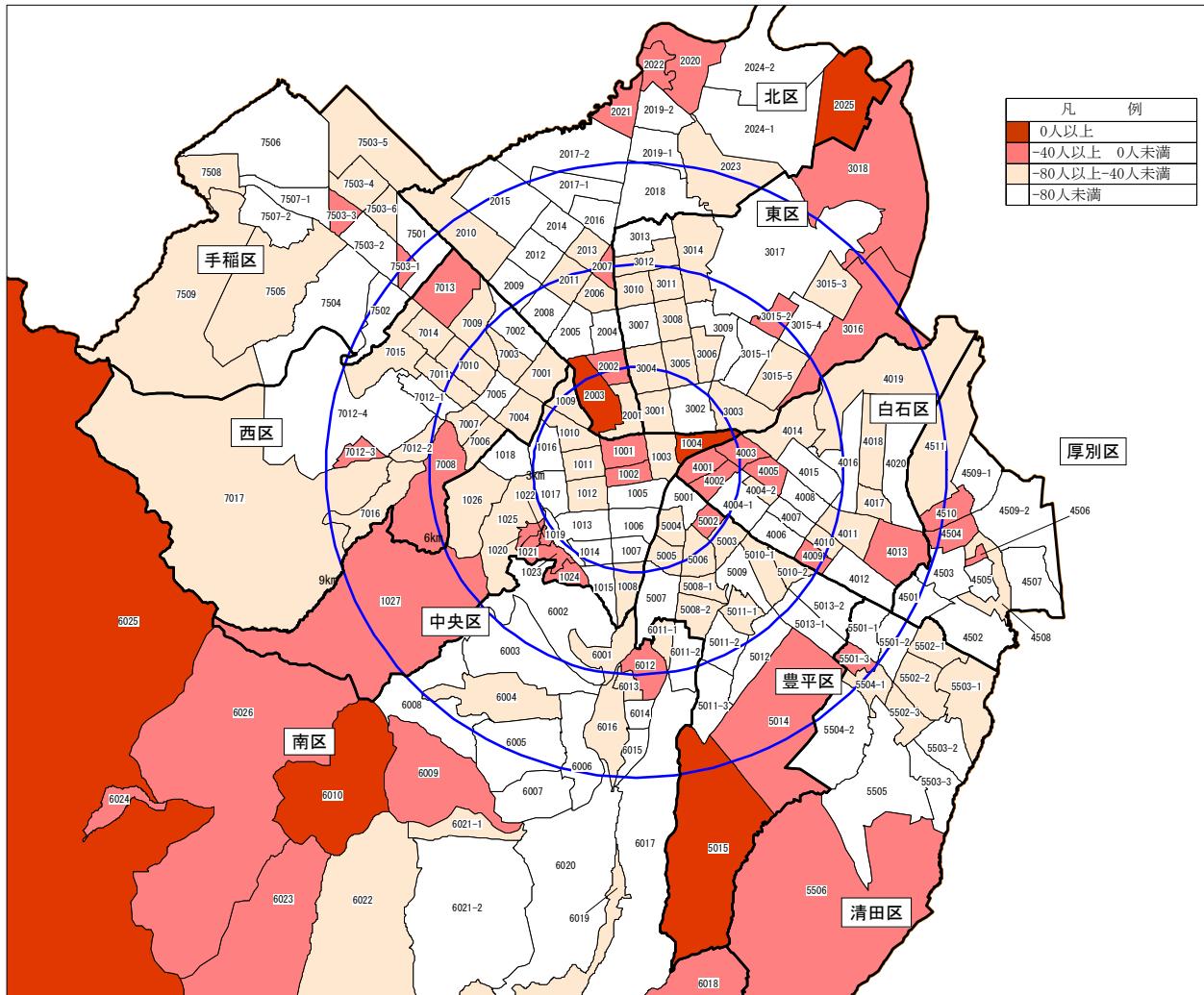
第12表 自然増加数の多い統計区及び少ない統計区

人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

順位	自然増加数の多い統計区					順位	自然増加数の少ない統計区					令和7年中 自然増加数
	統計 主な 地 区	番 号	及 び	自 然 増 加 数	統 計 主 な 地 区	番 号	及 び	自 然 増 加 数				
1	2003	北) 北海道大学構内		2	4507	厚) もみじ台東・西・南・北		△ 257				
2	1004	中) 苗穂地区		—	27502	手) 西宮の沢		△ 237				
2	2025	北) 篠路町福移		—	36020	南) 真駒内南町、石山、石山東、芸術の森		△ 222				
2	5015	豊) 西岡		—	46006	南) 川沿、川沿町		△ 204				
2	6010	南) 砥山		—	54004-1	白) 東札幌、中央		△ 200				
2	6025	南) 定山渓		—								

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

第11図 統計区別自然増加数(令和7年中)



注: 第12表参照。

<資料> まちづくり政策局政策企画部企画課

(2) 社会増加数

社会増加数の最も多い統計区は東区の3001統計区（鉄東地区、北光地区）（第13表、第12図）

令和7年中の統計区別社会増加状況をみると、増加が147統計区、減少が56統計区、増減なしが0統計区（人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く）となっている。

社会増加数の多い統計区をみると、東区の3001統計区（鉄東地区、北光地区）が592人で最も多く、以下、中央区の1012統計区（大通地区、西地区）が454人、豊平区の5001統計区（豊平、旭町、水車町）が374人などと続いている。一方、社会増加数の少ない統計区をみると、白石区の4008統計区（本通北、平和通）がマイナス192人で最も少なく、以下、中央区の1018統計区（円山地区、宮ヶ丘、宮の森）がマイナス162人、北区の2017-2統計区（屯田、屯田町）がマイナス144人、などと続いている。

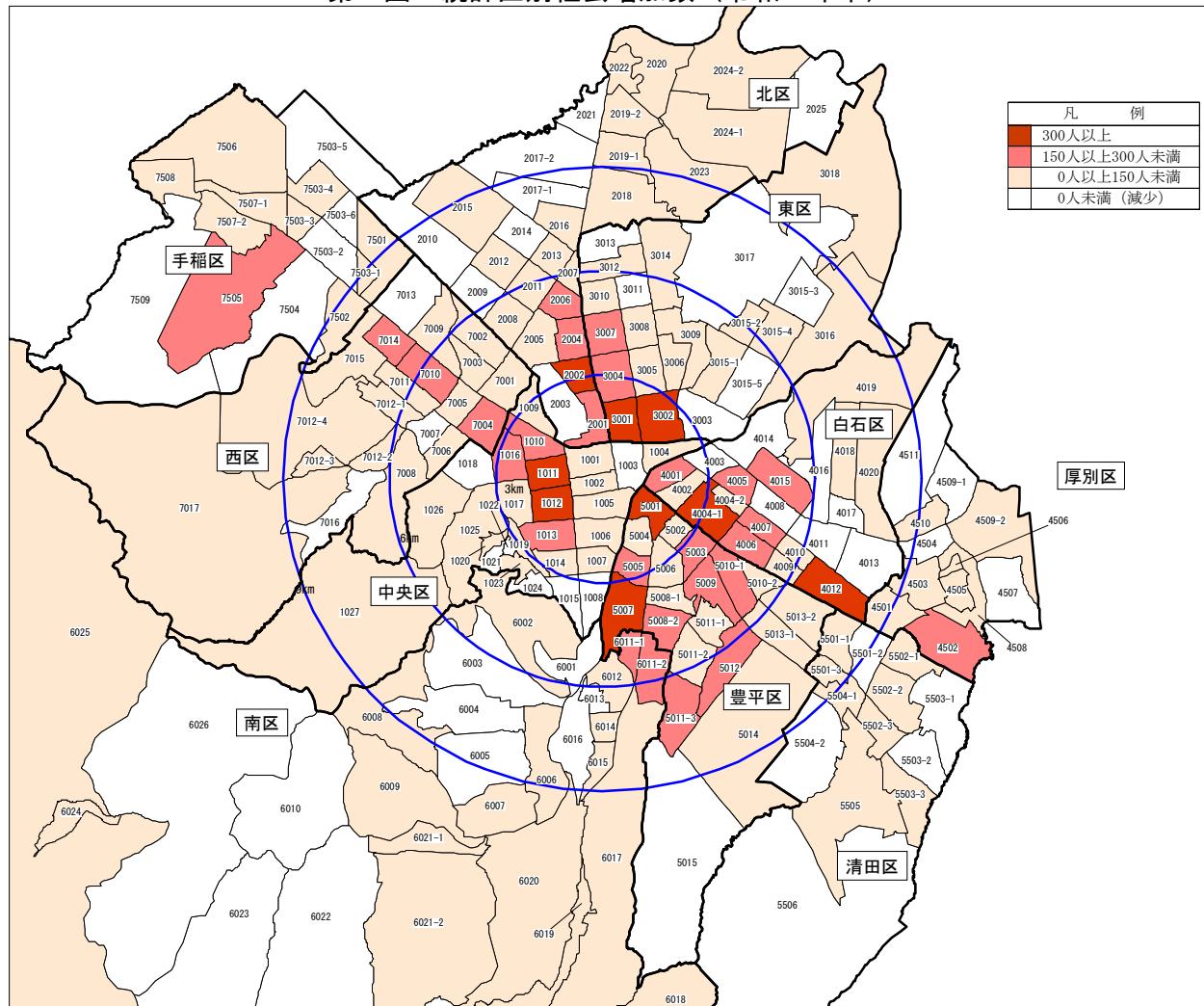
第13表 社会増加数の多い統計区及び少ない統計区

人口が皆無の6002、6007及び6008統計区を除く。

順位	社会増加数の多い統計区			順位	社会増加数の少ない統計区			令和7年中 社会 増加数
	統計区 主な地 区	番号及 び 地 名	社会 増加数		統計区 主な地 区	番号及 び 地 名	社会 増加数	
1	3001	東) 鉄東地区、北光地区	592	1	4008	白) 本通北、平和通	△ 192	
2	1012	中) 大通地区、西地区	454	2	1018	中) 円山地区、宮ヶ丘、宮の森	△ 162	
3	5001	豊平、旭町、水車町	374	3	2017-2	北) 屯田、屯田町	△ 144	
4	3002	東) 鉄東地区、苗穂地区	354	4	4507	厚) もみじ台東・西・南・北	△ 133	
5	1011	中) 大通地区、桑園地区	326	5	1003	中) 東北地区、東地区	△ 102	

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第12図 統計区別社会増加数（令和7年中）



注： 第13表参照。

＜資料＞ まちづくり政策局政策企画部企画課

第14-1表 男女・月次・区別人口動態(総数)(令和7年)

住民基本台帳による。

男 女 、 次 月 及 び 区	人 口 増加数	自然動態			社 会 増加数	社会移動態												区間移動・その他			
		自然 増加数	出 生	死 亡		市 外 と の 移 動						転 出			増加数	区間移動	職權等				
						増 加 数		転 入		転 出		増加数	区間移動	職權等							
		総 数	△1,090	△14,805	9,412	24,217	13,715	14,165	11,855	2,310	66,692	34,816	31,876	52,527	22,961	29,566	△ 450	—	52,324	52,324	△ 450
男	△ 275	△ 7,152	4,721	11,873	6,877	7,223	5,147	2,076	35,881	17,926	17,955	28,658	12,779	15,879	△ 346	—	25,149	25,149	△ 346		
	△ 815	△ 7,653	4,691	12,344	6,838	6,942	6,708	234	30,811	16,890	13,921	23,869	10,182	13,687	△ 104	—	27,175	27,175	△ 104		
月 別																					
7年 1月	△1,568	△ 2,028	742	2,770	460	502	333	169	3,118	1,415	1,703	2,616	1,082	1,534	△ 42	—	3,440	3,440	△ 42		
2月	△ 546	△ 1,239	689	1,928	693	734	787	△ 53	3,793	2,038	1,755	3,059	1,251	1,808	△ 41	—	3,601	3,601	△ 41		
3月	△ 383	△ 1,302	725	2,027	919	981	3,262	△2,281	13,926	8,215	5,711	12,945	4,953	7,992	△ 62	—	5,582	5,582	△ 62		
4月	△ 3,244	△ 1,154	765	1,919	4,398	4,399	2,857	1,542	12,760	7,262	5,498	8,361	4,405	3,956	△ 1	—	4,859	4,859	△ 1		
5月	△ 334	△ 1,111	826	1,937	777	840	418	422	4,480	2,055	2,425	3,640	1,637	2,003	△ 63	—	4,611	4,611	△ 63		
6月	69	△ 1,067	779	1,846	1,136	1,172	624	548	4,437	2,102	2,335	3,265	1,478	1,787	△ 36	—	4,335	4,335	△ 36		
7月	79	△ 936	878	1,814	1,015	1,035	627	408	4,639	2,231	2,408	3,604	1,604	2,000	△ 20	—	4,708	4,708	△ 20		
8月	△ 591	△ 1,017	809	1,826	426	462	546	△ 84	3,774	1,790	1,984	3,312	1,244	2,068	△ 36	—	4,110	4,110	△ 36		
9月	△ 36	△ 1,146	856	2,002	1,110	1,162	480	682	4,739	2,074	2,665	3,577	1,594	1,983	△ 52	—	4,203	4,203	△ 52		
10月	△ 104	△ 1,248	865	2,113	1,144	1,180	821	359	4,343	2,257	2,086	3,163	1,436	1,727	△ 36	—	4,815	4,815	△ 36		
11月	△ 738	△ 1,335	719	2,054	597	638	405	233	3,227	1,637	1,590	2,589	1,232	1,357	△ 41	—	4,090	4,090	△ 41		
12月	△ 182	△ 1,222	759	1,981	1,040	1,060	695	365	3,456	1,740	1,716	2,396	1,045	1,351	△ 20	—	3,970	3,970	△ 20		
区 別																					
中 央 区	278	△ 1,563	1,252	2,815	1,841	2,347	2,051	296	12,663	5,481	7,182	10,316	3,430	6,886	△ 506	△ 434	7,660	8,094	△ 72		
北 区	△ 356	△ 1,973	1,315	3,288	1,617	2,124	1,153	971	9,966	4,353	5,613	7,842	3,200	4,642	△ 507	△ 351	6,387	6,738	△ 156		
東 区	403	△ 1,698	1,369	3,067	2,101	1,752	1,521	231	7,985	4,363	3,622	6,233	2,842	3,391	349	381	7,220	6,839	△ 32		
白 石 区	455	△ 1,490	1,125	2,615	1,945	1,782	1,491	291	7,347	4,229	3,118	5,565	2,738	2,827	163	222	6,964	6,742	△ 59		
厚 別 区	△ 806	△ 1,115	484	1,599	309	570	589	△ 19	3,646	2,100	1,546	3,076	1,511	1,565	△ 261	△ 221	2,449	2,670	△ 40		
豊 平 区	1,375	△ 1,418	1,257	2,675	2,793	2,410	2,149	261	9,062	5,190	3,872	6,652	3,041	3,611	383	426	8,195	7,769	△ 43		
清 田 区	△ 997	△ 1,102	370	1,472	105	276	389	△ 113	2,079	1,160	919	1,803	771	1,032	△ 171	△ 158	1,993	2,151	△ 13		
南 区	△1,108	△ 1,693	499	2,192	585	851	503	348	4,189	2,223	1,966	3,338	1,720	1,618	△ 266	△ 243	3,108	3,351	△ 23		
西 区	316	△ 1,366	1,214	2,580	1,682	1,402	1,361	41	6,566	3,726	2,840	5,164	2,365	2,799	280	292	5,712	5,420	△ 12		
手 稲 区	△ 650	△ 1,387	527	1,914	737	651	648	3	3,189	1,991	1,198	2,538	1,343	1,195	86	86	2,636	2,550	—		

<資料> まちづくり政策局企画部企画課

第14-2表 男女・月次・区別人口動態(日本人)(令和7年)

住民基本台帳による。

男 女、 月 及 び 区	人 口 増加数	自然動態			社 会 増加数	社会移動												区間移動・その他				
		自然 増加数	出生	死亡		市外との移動						区間移動						職権等				
						増加数			転入			転出			增加数		区間移動					
		総数	△4,306	△14,870	9,311	24,181	10,564	10,430	11,995	△1,565	58,458	34,109	24,349	48,028	22,114	25,914	134	—	50,808	50,808	134	
総 数																						
男		△2,030	△ 7,175	4,676	11,851	5,145	5,082	5,215	△ 133	31,475	17,563	13,912	26,393	12,348	14,045	63	—	24,292	24,292	63		
女		△2,276	△ 7,695	4,635	12,330	5,419	5,348	6,780	△1,432	26,983	16,546	10,437	21,635	9,766	11,869	71	—	26,516	26,516	71		
月 別																						
7年 1月		△1,684	△ 2,027	738	2,765	343	348	343	5	2,748	1,397	1,351	2,400	1,054	1,346	△ 5	—	3,380	3,380	△ 5		
2月		△ 588	△ 1,240	684	1,924	652	655	810	△ 155	3,315	2,005	1,310	2,660	1,195	1,465	△ 3	—	3,507	3,507	△ 3		
3月		△ 531	△ 1,303	719	2,022	772	758	3,275	△2,517	12,971	8,102	4,869	12,213	4,827	7,386	14	—	5,421	5,421	14		
4月		2,585	△ 1,161	757	1,918	3,746	3,705	2,873	832	11,581	7,186	4,395	7,876	4,313	3,563	41	—	4,712	4,712	41		
5月		△ 504	△ 1,123	811	1,934	619	609	475	134	3,843	2,012	1,831	3,234	1,537	1,697	10	—	4,478	4,478	10		
6月		△ 179	△ 1,072	772	1,844	893	882	640	242	3,881	2,032	1,849	2,999	1,392	1,607	11	—	4,191	4,191	11		
7月		△ 105	△ 937	873	1,810	832	811	641	170	4,069	2,175	1,894	3,258	1,534	1,724	21	—	4,561	4,561	21		
8月		△ 491	△ 1,024	800	1,824	533	528	585	△ 57	3,318	1,742	1,576	2,790	1,157	1,633	5	—	3,988	3,988	5		
9月		△ 782	△ 1,157	843	2,000	375	371	460	△ 89	3,617	2,008	1,609	3,246	1,548	1,698	4	—	4,083	4,083	4		
10月		△ 516	△ 1,258	854	2,112	742	734	798	△ 64	3,641	2,182	1,459	2,907	1,384	1,523	8	—	4,666	4,666	8		
11月		△1,002	△ 1,340	711	2,051	338	324	401	△ 77	2,639	1,580	1,059	2,315	1,179	1,136	14	—	3,995	3,995	14		
12月		△ 509	△ 1,228	749	1,977	719	705	694	11	2,835	1,688	1,147	2,130	994	1,136	14	—	3,826	3,826	14		
区 別																						
中 央 区		△ 408	△ 1,574	1,233	2,807	1,166	1,583	2,068	△ 485	11,141	5,358	5,783	9,558	3,290	6,268	△ 417	△ 437	7,378	7,815	20		
北 区		△ 755	△ 1,990	1,295	3,285	1,235	1,330	1,268	62	7,956	4,274	3,682	6,626	3,006	3,620	△ 95	△ 106	6,194	6,300	11		
東 区		△ 92	△ 1,720	1,345	3,065	1,628	1,362	1,522	△ 160	7,175	4,279	2,896	5,813	2,757	3,056	266	208	6,927	6,719	58		
白 石 区		94	△ 1,497	1,114	2,611	1,591	1,408	1,486	△ 78	6,514	4,154	2,360	5,106	2,668	2,438	183	187	6,789	6,602	△ 4		
厚 別 区		△ 908	△ 1,118	480	1,598	210	428	573	△ 145	3,298	2,057	1,241	2,870	1,484	1,386	△ 218	△ 226	2,401	2,627	8		
豊 平 区		1,076	△ 1,418	1,250	2,668	2,494	2,068	2,104	△ 36	8,230	5,079	3,151	6,162	2,975	3,187	426	413	7,988	7,575	13		
清 田 区		△1,127	△ 1,103	367	1,470	△ 24	135	380	△ 245	1,815	1,131	684	1,680	751	929	△ 159	△ 166	1,925	2,091	7		
南 区		△1,369	△ 1,694	495	2,189	325	516	593	△ 77	3,503	2,165	1,338	2,987	1,572	1,415	△ 191	△ 182	3,053	3,235	△ 9		
西 区		67	△ 1,370	1,207	2,577	1,437	1,157	1,345	△ 188	6,065	3,679	2,386	4,908	2,334	2,574	280	268	5,588	5,320	12		
手 稲 区		△ 884	△ 1,386	525	1,911	502	443	656	△ 213	2,761	1,933	828	2,318	1,277	1,041	59	41	2,565	2,524	18		

<資料> まちづくり政策局企画部企画課